

# 令和6年度 文京区立千駄木小学校授業改善推進プラン

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果		令和6年度「全国学力・学習状況調査」の分析	
成果	○「授業の内容はよく分かりますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は、国語は約91%、算数は約87%であり、国や都の平均を上回っていた。「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童も約85%おり、国や都の平均を上回っている。	→	国語、算数の結果は、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等について、高い結果となった。これまでの学習の積み重ねがあるため、友達との学び合いを通して自分の考えを深めることができていると言える。国語、算数の授業の内容が分かっており、勉強は大切だと思っている実態があるため、今後も課題解決の意欲を高めていきたい。
	○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と約84%の児童が回答した。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と約88%の児童が回答し、国や都の平均を上回っていた。	→	日常の学校生活の中でも、互いの考えを聞き合い、共に解決策を考え、一緒に協力して解決していこうとしている姿がうかがえる。これまで対話を取り入れた授業を展開してきた成果であると言える。引き続き、多くの教科や学校生活場面で、児童自身が対話を大切にしながら自分の考えを深める活動を、今後も続けていきたい。
	○「自分には、よいところがあると思いますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は約85%、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と約96%の児童が回答した。昨年度調査と比較すると、約6%増加した。	→	「いいとこ見つけ週間」など互いのよさを認め合う活動や教員が児童のよさを引き出す活動を日常的に実施したことで、自分のよさの自覚につながったと言える。自分のよさに気付くと、自己肯定感が高くなると考えられる。引き続き、教育活動全体を通して、自分のよさの自覚につなげるよう工夫していく。
	○「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問をもったり問題を見いだしたりすることがありますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は約90%、「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童が約89%おり、どちらも国や都の平均を上回っていた。	→	各学年で付けてほしい理科の力を積み重ねて授業を受けている児童が多くいると言える。そして、「理科の勉強が好きである」と回答している児童が多いことから、教員の専門性を生かした教科担任制をすすめることによって授業の充実を図り、児童が理科の学習を肯定的に捉えることができていると言える。
課題	△「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」に「当てはまる」と回答した児童は54.2%で国や都の上回った。しかし、「当てはまらない」と回答した児童も4.9%いた。	→	昨年度に比べて結果はよくなっているが、自分の考えをより深めるために指導方法や学習の展開を工夫していく必要がある。そのため、昨年度に引き続き、校内研究を『道徳』に絞り、対話を取り入れた授業を通して、心豊かによりよく生きる児童の育成を目指していく。
	△「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は約77%いる。一方、「当てはまらない」と回答した児童が約5%で、国や都の平均を上回っている。	→	今後も教材研究に努め、児童が理解しやすい授業を展開していく。また、主体的に学習に取り組み、自立した学習ができる児童を育てるために「マイタイム」(3～6年生)では、児童の状況に応じて学習を進められるようにする。さらに、金曜日の「放課後質問教室」(全学年)では個の実態に応じた指導をしていく。

以上のことから、今年度の授業改善推進プランの重点は

- 学びに向かう意欲を高める工夫
- 自分の考えをより深めるための対話の工夫

とし、各教科における指導の工夫をまとめ、実施していく。

令和6年度 授業改善推進プラン(各教科)

文京区立千駄木小学校

令和6年9月

	学びに向かう意欲を高める工夫	自分の考えをより深めるための対話の工夫
国語	○学習を通してどのような言葉の力を身に付けたいか、そこに向けてどのような活動を設定していくかを児童と考え、計画を作ることで、学習に必然性ををもたせ、児童の主体的に学習したいという意欲を高める。	○本文を読んで考えたことや、言葉や文字の使い方についての自分の考えや経験、考えを練り上げるまでの過程を友達と交流し、共有することで、自分の学びを相対化し、自分がなりたい学びの姿に向かってどのように学習を進め、自分の学習を改善していくかを考えられるようにする。
社会	○児童が「なぜ」「どうして」「知りたい」と思える導入資料を用いたり、児童に調べる計画を立てさせ、主体的に調べ学習を進めさせたりする活動を通して、自ら学ぼうとする意欲を高める。	○調べた内容についてコンセプトマップ等にまとめるだけでなく、調べた内容を友達に説明したり、交流したりするなどアウトプットする活動を取り入れることで、より社会的事象のつながりを意識した学びができるようにする。調べた事実をもとに、それらの社会的意味について考える活動を意図的に設定することで、多面的に考えを深められるようにする。
算数	○単元を通じた学習計画を立て、導入の場面を中心に児童に身近な教材を用いて学習を進めていく。また、児童に計画を立てさせ、見直しをもって学習に取り組み、自ら学習を進めることで意欲を高める。	○問題の答えを出すだけでなく、自分の考えを説明したり、友達の見方を聞いて取り入れる活動を取り入れる。その際に、自分の考えをノート等にかかせたうえで交流をさせ、図や表なども活用しながら伝え合い、考えを深められるようにする。
理科	○児童にとって身近な現象を取り上げたり経験したことなどを想起させたりすることを通して、問題づくりをすることで、意欲的に学習に取り組めるようにする。また、予想や仮説を検証するための観察や実験を一人一活動や少人数で行うことで、主体的に学習に取り組もうとする意欲を高める。	○自分の予想に対しての自信度を示すことで、自分の考えに対する根拠をもたせ、その上で説明したり交流したりする。観察・実験からの考察では、自分の予想と結果の比較、結果から言えることなどを考えさせまとめさせ、さらに、学んだことを生かして考える問題や活動を設定し、考えを深められるようにする。
生活	○単元ごとに学習の見直しをもたせながら、個々の思いや願いを大切に、観察したり、調べたりしたいことを出し合い、活動を広げる。集めた情報を共有し、新たな気づきを得ることで、主体的に取り組もうとする意欲を高める。	○毎時間の振り返りの時間を大切にし、学習の記録や写真なども活用して共有しながら、気付いたことや考えたことを対話によって深める。自分の意見との比較や、全く違う考えについては、詳しく伝え合えるようにする。
道徳	○導入で児童の生活経験を尋ねることで、扱う価値項目についての興味付けを行ったり、児童が自分事として考えたいような発問を設定したりすることで学習意欲を高める。学習の終わりに自己評価や振り返りの時間を設けることで、自分の生活を見つめ直し、自らの成長を実感したり、今後の課題や目標を見付けたりすることができるようにする。	○日常生活で直面する倫理的なジレンマを題材にするなど、児童が自然に話し合いたくなるようなテーマや問題を設定する。自分の考えや立場を明確にした上で他者と交流し、新たな視点に気付いたり、考えを深めたりすることができるようにする。
音楽	○めあてを明確にし、活動の見直しをもたせる。学びたいと思うような導入の工夫、めあてに即した発問の吟味や単元に合った音源選択を考える。何を学ぶのか、何が身に付いたかが分かるようにすることで、自ら学ぼうとする意欲を高める。	○学習内容に応じて、ペアやグループなどの学習形態を工夫し学びの広がりや深まりを実感できるようにする。授業で学んだことやそれを生かして表現できたことを聴き合ったり、自分の考えをもったり、互いのよさを見付けたりして考えを深められるようにする。
図工	○児童の知的好奇心を揺さぶる題材を設定し、発問や提示を行う。板書を工夫したり動画等を取り入れたりして、全ての児童が活動内容の見直しをもって活動できるようにする。児童の思いを引き出し、安心して表現することができるように個別支援する。	○「みんなちがってみんないい」という雰囲気づくりに努め、多様な考えを受け容れやすくする。自分の活動を紹介し合ったり、共同作品に取り組んだりする機会を通して、自分の考えを伝え、互いのよさを認められるようにする。
家庭	○家庭で実際に起こっていることや課題などを取り上げ、身近な話題から、課題設定することで、学習に対する興味・関心を高める。学習したことを実生活に還元するように呼びかけ、その実例を共有し、家庭科の有用性を感じらせ、児童が学習したことを主体的に生活に活かそうとする気持ちを育てる。	○児童同士の生活経験の違いを活用して対話に繋がる課題を設定し、調べて、比較して、協力して問題解決するプロセスを定着させる。実習の成果物を共有し、作り方や縫い方の工夫などについて話し合うことで、学びを深めていく。
体育	○「全員が楽しめる」ことを前提とし、練習内容やゲームのルールについて児童が考え変更していく余地を与え、その単元を自分事と捉えて取り組めるようにする。 ○本時の学習を振り返り、めあての達成度や自己の課題等を理解し、次時の活動につなげていく。	○児童一人一人が自己の課題を掴み、その課題の解決に向けてグループ活動を行う。グループ活動では、運動している様子を動画等で記録し、以前の自分の動きや、他の児童と比較しながら、動きの改善方法について話し合うことで、他の視点から自分の動きについて深く考えられるようにする。
外国語	○単元のはじめにゴールを明確に示すことにより、児童は、見直しをもって授業に参加できるようにする。スモールステップで活動し、児童がゴールで伝えたいことを表現できるように個別で支援していく。	○コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にし、単元を通してできるようになることを具体化する。振り返りの際にできるようになったことやまだできないことを自覚する。場面に応じた対話を通して考えを広げたり、相手を意識して考えたりした内容を共有する。